

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271102412		
法人名	医療法人 敬天会		
事業所名	グループホーム 野の実		
所在地	〒859-0417 長崎県諫早市多良見町船津299-6 (電話) 0957-44-1991		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年3月2日

## 【情報提供票より】(H20年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
Aユニット職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8.0 人	
Bユニット職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.0 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 2階建ての1階部分
------	----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	30,000円~48,000円			
その他経費(月額)	理美容代実費、おむつ代実費、光熱水費9,000円、施設管理費3,000円、ベッドリース3,000円、寝具リース3,000円			
敷金	(有) 家賃の3ヶ月分 ) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 96 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	清原龍内科・すばる診療所・西諫早病院・凧デンタル
---------	--------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の自然豊かな場所に立地しており、眼前には大村湾の穏やかな景色が広がり、自然を満喫しながらゆったりと暮らせる環境である。建物は木材をふんだんに使用されており、木の温もりが感じられる造りである。ケアはホームの理念に沿ってなされ、本人の力を最大限活かすことを重視しており、本人の得意なことや好きなことができる環境を整え、それが行なえるようなケアが実践されている。それはケアプランの中にも明記され、日々の暮らしをその人らしく過ごせることを大切にしている。地域との交流も活発であり、自治会に加入したり、近隣住民との日常的な付き合いや近くの小学校との定期的な交流、夏祭りや収穫祭など地域行事への参加も積極的である。また、より生活の質の向上の観点から一泊旅行も実施されている。今後さらに地域の中に溶け込みながら、その中で豊かな暮らしを送れるケアの実践が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された項目で一部は改善に向けて計画・実施されている。具体的には、理念を日々確認することについては、始業時や就業時理念を確認したり、振り返ったりしており、評価の意義と理解については、自己評価、外部評価を全職員で取り組み、共有しながら意識の向上を図られている。家族への報告は、職員の交代について家族の面会時に報告し、また廊下にスタッフ紹介の掲示をしている。職員を育てる取り組みは、認知症介護実践研修会に要件を満たす職員2名が受講しており、チームでつくる利用者本意の介護計画については、本人や家族の思い、意向をより反映させることができるような機会を設け、取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価の結果について全職員で話し合い、改善について検討するなどしてサービスの質の向上へと繋がった。それを踏まえて、今年度の自己評価をまず全職員が各々で行い、それをホームの自己評価としてまとめる過程で日頃の支援業務を見直し、更なるサービスの質の向上を図られている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、自治会長、民生委員、市の担当者、利用者家族が参加し、活動報告だけに留まらず自治会加入や地域とのかかわり、身体拘束についての幅広い議題で話し合われ、有意義な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会の際に声をかけるなどして、家族が気軽に希望や意見、要望、苦情を言えるように配慮している。家族から苦情があった場合は苦情受付窓口で対応し、希望や意見、要望は連絡ノートに記載している。いずれの場合も内容を全職員で検討し、改善へと繋げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、市民清掃時には入居者と職員が参加し、地域住民としての役割を担っている。また地域の小学生の訪問や、小学校の発表会に招待されるなどの交流も定例化している。その他地域の夏祭りや収穫祭などにも参加し、地域と積極的に交流している。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年にそれまでの理念を見直し、さらにわかりやすく親しみやすい理念を職員全員で検討し作成された。新しい理念は地域密着型サービスの意義を踏まえ、一人ひとりの想いを大切に、地域の中でその人らしく暮らせることに主眼を置いたものになっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲げる意味や意義を十分理解し、常に理念を意識したケアが実践されるよう会議等の場で確認している。また、重要事項説明書にも明記され、契約時に本人及び家族に説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、市民清掃時には入居者と職員が参加し、地域住民としての役割を担っている。また地域の小学生の訪問や、小学校の発表会に招待されるなどの交流も定例化している。その他地域の夏祭りや収穫祭などにも参加し、地域と積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果について全職員で話し合い、改善について検討するなどしてサービスの質の向上へと繋がられた。それを踏まえて、今年度の自己評価をまず全職員が各々で行い、それをホームの自己評価としてまとめる過程で日頃の支援業務を見直し、更なるサービスの質の向上を図られている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長、民生委員、市の担当者、利用者家族が参加し、活動報告だけに留まらず自治会加入や地域とのかわり、身体拘束についてなどの幅広い議題で話し合われ、有意義な会議となっている。		現在は各委員の諸事情で2ヶ月に1回の開催とはなっていないため、各委員に運営推進会議の重要性を改めて説明していただくなどして、2ヶ月に1回の開催が実現できるように努めることに期待したい。また外部評価の結果についても報告していただき、改善に向けた取り組みについて意見交換することが望まれる。

グループホーム 野の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは気軽に、日常的に相談したり、話し合える関係を築いており、制度的な側面のみならず幅広い観点からサービスの向上に向けて連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況は家族が面会に来られた際に報告したり、遠方の家族へは電話で知らせている。また毎月出納簿とともにホームだよりである「野の実だより」を送付し、行事の様子などを写真などで伝えている。職員の紹介や異動については家族訪問時に報告したり、常時廊下に顔写真入りの職員紹介コーナーでお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際に声をかけるなどして、家族が気軽に希望や意見、要望、苦情を言えるように配慮している。家族から苦情があった場合は苦情受付窓口で対応し、希望や意見、要望は連絡ノートに記載している。いずれの場合も内容を全職員で検討し、改善へと繋げている。		ホーム内に意見箱を設けられているが、それを利用される方はほとんどおられない状況であるため、家族の意見を引き出す方法としてアンケートの実施などの取り組みに期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑えている。異動があった場合は利用者への影響を極力少なくするために入居者の様子を細かく把握し、こまめに対応するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会に加入し、当連絡協議会の主催する研修会に参加したり、協力医療機関が実施する勉強会に参加し、職員のスキルアップを図っている。研修内容については会議等の機会での他の職員にも伝え、職員間の共有を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会に加入後、研修先で他のホームの職員との情報交換ができたり、互いのホームを見学し合う相互訪問など、交流を通じてのネットワーク作りにより、今後はさらなる質の向上が期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心感を持って入居していただけるように職員が何度も面会したり、体験入居をしていただいたりしている。また入居後の不安を和らげるために、入居者の様子を把握しながら、必要に応じて自宅への外泊や外出を行ったり、家族の面会を頻繁に行なっていただくなどの工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から、漬物の漬け方や生花、編み物、甘酒作り、藁ぞうり作り、野菜作りなど入居者の得意なことや出来ることを教えてもらい、職員もそれらと一緒に取り組みながら、共に支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者との日々の関わりの中で、入居者の思いを把握するように努めており、言葉での表出が困難な入居者からは表情、仕草などから思いを汲み取るように努めている。入居者一人ひとりの思いや意向は全職員が共有できるようにケア会議などで確認するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成において、本人のニーズを多角的に把握するために本人だけではなく、家族や関係者とも話し合い作成している。作成されたケアプランは、身体状況のケアのみならず、一人の生活者としての視点で、本人がより本人らしく暮らすことを大切に内容となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直しの際には再度入居者の状態を把握し、また暮らしについての希望や意向の確認を行い、入居者一人ひとりの現状に即したケアプランになるようにしている。状態に変化があった場合にはそのつど見直している。</p>		

グループホーム 野の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えており、ホーム内での点滴などの医療処置が可能となっている。また入居者の状況に応じて通院支援や帰省時の送迎、理・美容院への送迎支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりのかかりつけ医と連携し、互いに情報交換しながら適切な医療を受けられるよう支援している。またそれ以外に週に1回協力医療機関からの往診があり、入居者の状態の把握を行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期における指針については入居時に本人及び家族に説明を行なっている。現在も終末期の入居者の支援を行なっており、本人や家族、主治医との連携を図り、必要に応じて話し合い、方針を共有しながら対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への対応や言葉かけは、本人の自尊心に配慮し、人生の先輩としての尊敬の念を持ちながら対応している。個人記録その他個人情報に係る物の取り扱いについては、保管場所を定め、適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れはおおよそ決まっているが、その日の入居者の体調や気分、希望を尊重し、起床時間や就寝時間、食事の時間、入浴の時間など入居者一人ひとりのペースで過ごせるよう柔軟に対応している。		

グループホーム 野の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまでを通して、食事が楽しく充実したものとなるように入居者と職員と一緒に取り組んでいる。食材の皮むきから野菜等のきざみ、盛り付け、茶碗洗いなど、入居者の力を発揮できるようにさりげなく配慮しながら、和気あいあいとした雰囲気で作られている様子が伺えた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜から土曜日までの13:00～17:00が基本的な入浴時間となっており、その時間にはいつでも入浴できる。またそれ以外の時間でも希望があれば入浴できるように対応している。入浴をゆっくりリラックスして楽しんでもらうように、浴室は外の景色が一望できる場所に設けられている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴などから得意なことや好きなことを把握し、それを活かせる場面をつくり、それを生活の質の向上や生きがいを持った暮らしへと繋げている。花が好きな方は玄関や居室に花を飾られ、布ぞうりを作られる方は訪問される方に作り方を教えられたり、野菜作りが好きな方は敷地内の畑で野菜作りを楽しまれたりなど、それぞれの役割を持つての暮らしづくりが伺える。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺には自然の草木があり、景色も良いため、日常的に付近を散歩したり、また定期的買い物やドライブなどに出かけ、気分転換を図るようにしている。一昨年から一泊旅行にも出かけており、旅行には家族やボランティアの方々も参加され、普段ではできない交流や親睦を深める貴重な機会となっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やその他の出入り口、居室の窓は日中鍵をかけておらず、鍵をかけないケアを実践している。入居者が落ち着かない場合などは職員がさりげなく付き添い、安全面に配慮しつつ対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の消防団の協力を得て年2回避難訓練を行なっている。訓練は日中及び夜間を想定し、通報訓練なども合わせて行なっている。災害が発生した場合には近隣住民の方にも自動的に連絡が入るようになっており、地域との協力体制も整えている。		火災や地震、台風などの災害は、いつ、どのような形で起こるのか予測がつかないため、災害対策としては避難訓練のみならずあらゆる場合を想定して行なわれることに期待したい。また、災害によってはライフラインが寸断され、ホームが孤立した状態になることも十分考えられるので、非常時の備品についても可能な限り準備されることに期待したい。

グループホーム 野の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の協力を得て、栄養のバランスに配慮したものとなっている。また一人ひとりの状態に合わせて、刻んだりとろみをつけたりするなどして食べやすいように工夫している。摂取量についてはそのつど記録し、把握するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じながら過ごせるように室内の各所には季節の花が飾られたり、季節の行事に関連したもの、例えばお雛様を飾るなど、季節の変化を感じられるように工夫している。建物には木材がふんだんに使用され、入居者にとっては落ち着ける空間となっており、廊下には作りつけのベンチもあり、思い思いに過ごせる配慮もなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には表札が掛けてあり、場所間違いを防ぐ配慮がなされている。使い慣れたものを使うことや、慣れ親しんだものに囲まれて暮らすことは本人の安心した暮らしには大切であることを家族に十分理解してもらい、室内にはベッドやタンスなどの家具や日用品、趣味のもの、仏壇などが持ち込まれ、安心して過ごせる空間づくりがなされている。		